

労災だより

2021 - JUNE

No.24

院長就任のあいさつ

新型コロナに対応しつつ地域医療を守るために、
皆様のご支援、ご協力をお願いいたします。

横浜労災病院 院長 三上 容司

本年4月から横浜労災病院長に就任いたしました三上容司です。1997年に整形外科部長として着任し、2010年から副院長、2021年4月から病院長を拝命いたしました。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、コロナ禍の現在、新型コロナ対応で皆様大変ご苦労されているものと思います。当院も例外ではなく、新型コロナ患者さん、疑似症患者さんへの対応、あるいはワクチン接種への対応に追われています。一方で、地域の中核病院として、新型コロナ以外の患者さんへの対応も求められています。当院に課せられた新型コロナへの対応と地域医療を守るという課題を両立すべく奮闘しているところです。引き続き近隣の医療機関の先生方と一丸となって、このコロナ禍を乗り越えていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



ところで、1991年に横浜労災病院が開院して30年が経過しました。この間、超高齢社会の到来、若年人口の減少、ITの普及、AIの発展、働き方改革など、医療を取り巻く環境は大きく変わりました。そして、変化のスピードはますます上がっています。病院も素早く、しなやかに変わっていくことが求められています。いままでの慣習や前例にとらわれず、組織の風通しを良くし、横浜労災病院をより良い病院にするために取り組んでまいりたいと考えています。

また、30年といえば、人間で言うところの一世代にあたります。病院も色々な意味で世代交代の時期に入りました。病院自体もその外観に古さが目立つようになり、院内の諸設備もそれなりに経年劣化しています。そこで、新病院設立を目指して、今年度から本格的な検討に入ることになりました。今後関係機関と協議、連携しながら新病院の基本構想を策定する予定です。

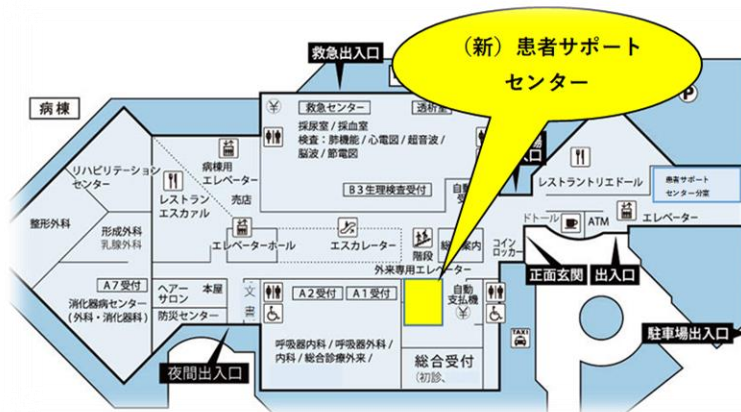
当院の理念は、「みんなでやさしい明るい医療」です。みんなで＝チーム医療、やさしい＝患者中心、明るい＝職員が明るく、透明性が高い、そのような医療を目指しています。この理念の実現を目指し、そして皆様に愛される病院を目指し、職員一丸となって取り組んでまいりますので、引き続きご支援、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

321 “新しい” 患者サポートセンターのご紹介

患者サポートセンターは、入院前から退院後まで、患者さんに切れ目のない支援を行うため、**地域医療連携室、入退院調整支援室、医療福祉相談室**、そして**周術期管理チーム**を一体化した組織です。

医師・看護師・医療ソーシャルワーカー(MSW)・事務職員など様々な職種が一体となり、地域の医療・福祉・介護サービスなど様々な社会資源と連携しながら、お一人おひとりの患者さん・ご家族を支援します。

昨年12月に、これまで院内に分散していた患者相談窓口を集約し、新たな「患者サポートセンター」を設置しました。複数の窓口を一本化することで、患者さんやご家族により分かりやすく、適切な支援ができるよう努めてまいります。



登録医予約専用電話 ☎ 045-474-8362 (平日 8:15~19:00)

☎ 045-474-8344

～登録医療機関の皆様へ～

当院への患者さんのご紹介は上記までご連絡下さい。

横浜労災病院

横浜市港北区小机町 3211 TEL 045-474-8111

就任のご挨拶

副院長（患者サポートセンター長） 永瀬 肇

本年4月から患者サポートセンター長を勤めさせて頂いております永瀬肇と申します。このセンターの業務は患者さんの入院前から退院後に至るまでの広範囲に及んでおり、地域医療連携や治療・就労両立支援なども重要になってきます。

当院では昨年度患者サポートセンターの整備も行ってきましたが、まだ多くの課題を抱えています。コロナ禍の影響で地域の先生方と密接な連携をとるための活動が制限される現状にありますが、院内外の医科のみならず歯科、薬剤部、看護部門、医療事務関係など、多くの皆様のご協力を仰ぎながら、内容のある患者サポートセンターを運営し、質の高い医療を提供する基礎となることを目指したいと考えております。宜しくお願いいたします



副院長 三好 光太

皆様、大変お世話になっております。副院長に就任しました三好光太と申します。平成3年に開院直後の横浜労災病院に赴任、2年後の大学への異動後も当院での脊椎手術を継続し、その後に再び当院への出戻り、今に至ります。

脊椎脊髄外科を専門としています。何も基盤無く始めたところ、皆様のお力添えにより、DPCデータの全国病院実績でもベスト10に入るような脊椎外科になりましたが、非常に奥深く、落とし穴も沢山潜んでおり、初心忘れず鍛錬を積み重ねていく所存です。

皆様もコロナ禍により辛い日々を過ごされていることでしょう。感染リスクを伴った職務、会合は全て中止、私自身も旅行は全て止め、ジムも退会、喜んだのは一緒に過ごす時間が増えた二匹の愛犬だけと、想像し難い日々を過ごしました。“明けない夜はない”、今は少しでも早く“辛”に“一”が加わり“幸”となるよう祈るばかりです。今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。



看護部長 瀧谷 樹美

4月より看護部長に就任いたしました瀧谷樹美と申します。横浜労災病院では12年間の勤務経験があり、縁あって再び勤務させて頂くことになりました。

今年度、患者サポートセンターの部門の1つである「入退院調整支援室」に室長として看護師長を配置し、機能の強化を図っております。当院を利用される患者さん・ご家族の皆さまが安心して医療を受けて頂けるよう入院支援を順次拡充していきます。

コロナ禍で顔の見える関係づくりが困難な状況ではありますが、地域の医療機関、福祉関連施設、訪問看護ステーションなどの皆様とのより円滑な地域ネットワークの推進に積極的に取り組んでまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。



呼吸器センター長 伊藤 優

前原前副院長の退職に伴い、このたび呼吸器センター長兼任を拝命いたしました。

当センターは内科と外科部門（山本健嗣部長）で構成され、「患者個々に応じて、呼吸器疾患の専門的治療を適切に選択し、安全かつ遅滞なく提供すること」をコア・バリューとし、肺がん診療、呼吸器救急疾患診療、慢性呼吸器疾患診療を3本柱としています。

今後も地域の皆さまのご期待に添えるよう邁進して参りますので、引き続き当センターへのご支援・ご指導を何卒お願い申し上げます。



不整脈治療科部長 長田 淳

この度、不整脈治療科部長を拝命しました 長田淳（おさだ じゅん）と申します。宮崎でのへき地医療に始まり、栃木での大学病院、横須賀での勤務（この時、福岡にも1年程度出張していました）を経て、横浜労災病院に赴任したのが2016年でした。いつの間にかキャリアも20年を超えました。現在は、循環器内科の中で不整脈に対するアブレーション治療を担当しております。

不整脈治療で横浜市北東部の地域医療に貢献できればと思います。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。



アスベスト疾患ブロックセンター長 小澤 聡子

このたびアスベスト疾患ブロックセンター長に就任致しました。当センターは関東ブロックのアスベストセンターの拠点となっています。石綿関連疾患の診断と治療を呼吸器センターと協力して行いながら、石綿健康管理手帳や労災補償、石綿救済法など行政制度に関わる申請の支援や石綿健診、石綿小体計測、石綿関連疾患の症例の集積などを行っております。

石綿関連の医療について何かありましたら、当センターまでお問い合わせください。どうぞよろしくお願い致します。



消化器内科部長 関野 雄典

この度、消化器内科部長に就任致しました 関野 雄典と申します。私自身は膵臓がんの克服と治療成績の向上をライフワークとし、膵がん前段階病変や小膵がんの検出に不可欠である超音波内視鏡検査の本格導入と後進への指導、病診連携を基にした膵臓がん早期診断プロジェクトや健診部での膵臓がんオプション検査の導入などに力を注いで参りました。

消化器内科・外科を統括する永瀬副院長、肝胆膵領域を統括する私とともに、消化管疾患を専門とする内山、金沢両副部長が活躍しており、食道・胃・小腸・大腸・肝・胆・膵と扱う臓器が多数に渡る消化器内科領域を、専門科集団で分業、連携を取りながら、地域の患者さんや先生方のお力になるべく最善最良の医療を提供できるように努めて参ります。

